

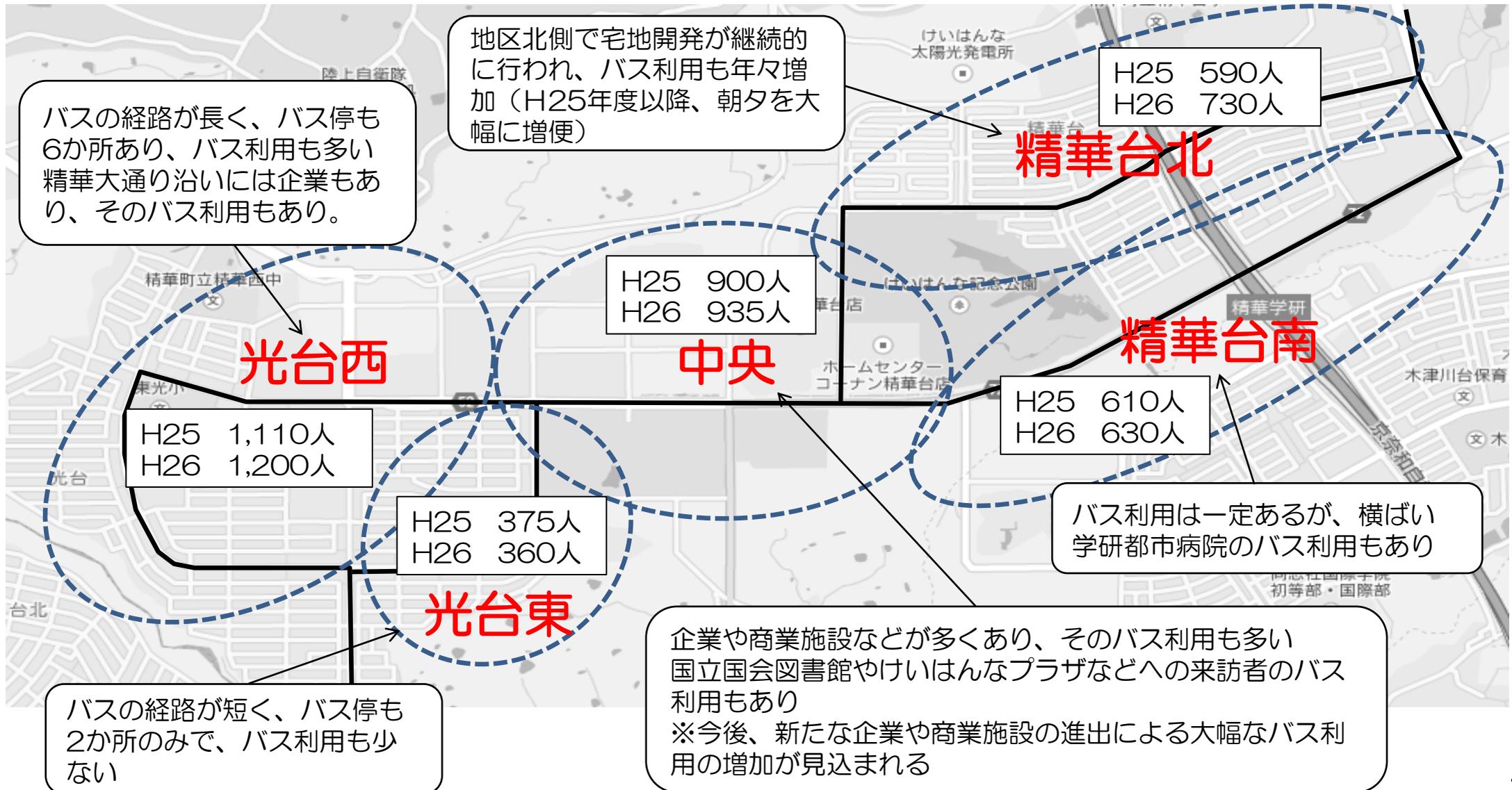
路線バスのダイヤ改正の概要について (平成27年6月1日実施)

平成27年8月17日

奈良交通株式会社

1. 路線バスの現状と課題

(1) バス沿線の地区割りと特徴、1日あたり推定乗降者数



(2) 改正前の祝園駅・学研奈良登美ヶ丘駅間のバス運行

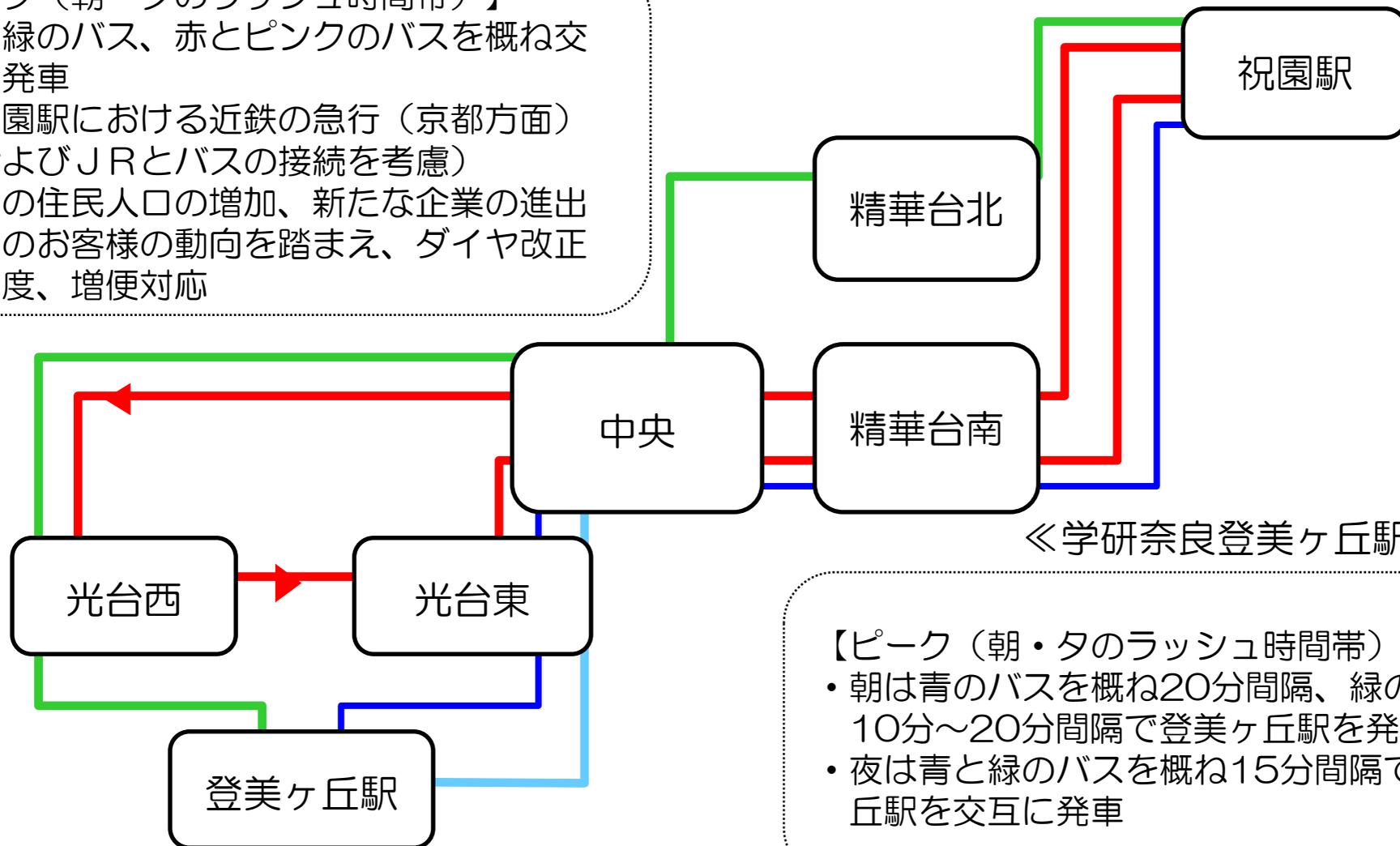
《祝園駅から》

【ピーク（朝・夕のラッシュ時間帯）】

・青と緑のバス、赤とピンクのバスを概ね交互に発車

（祝園駅における近鉄の急行（京都方面）
およびJRとバスの接続を考慮）

※沿線の住民人口の増加、新たな企業の進出
などのお客様の動向を踏まえ、ダイヤ改正
の都度、増便対応



《学研奈良登美ヶ丘駅から》

【ピーク（朝・夕のラッシュ時間帯）】

・朝は青のバスを概ね20分間隔、緑のバスを
10分～20分間隔で登美ヶ丘駅を発車
・夜は青と緑のバスを概ね15分間隔で登美ヶ
丘駅を交互に発車

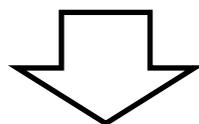
(3) 改正前の課題

① 緑のバスの沿線の住宅開発が進み、緑のバスと青のバスの住民利用の差が拡大。**(輸送効率のアンバランス)**
また、**ピンクのバスの夜の駅行きの利用が極めて少数である。**

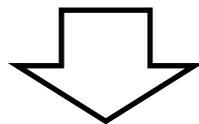
② オフピーク時は、緑のバスと青のバスが祝園駅、または登美ヶ丘駅を同時に発車するため、中央地区～登美ヶ丘駅間においては、2台のバスが近接した運行となる。**(1時間に4本あっても実質2本)**
ただ、それを補うため運行している**水色のバスは利用は極めて少数である。**

2. ダイヤ改正の目的

国立国会図書館からけいはんなプラザ周辺（中央地区）への企業、商業施設の進出により、当該地区の路線バス需要が拡大



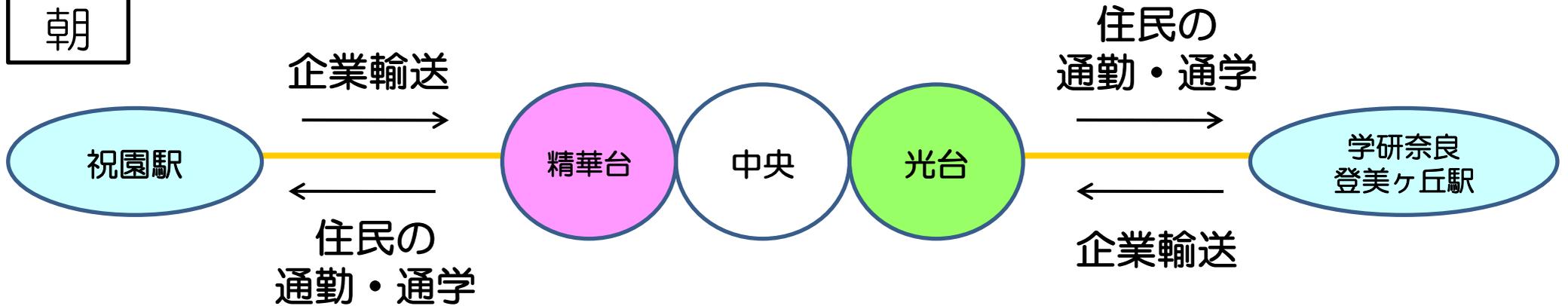
中央地区への路線バスを増便



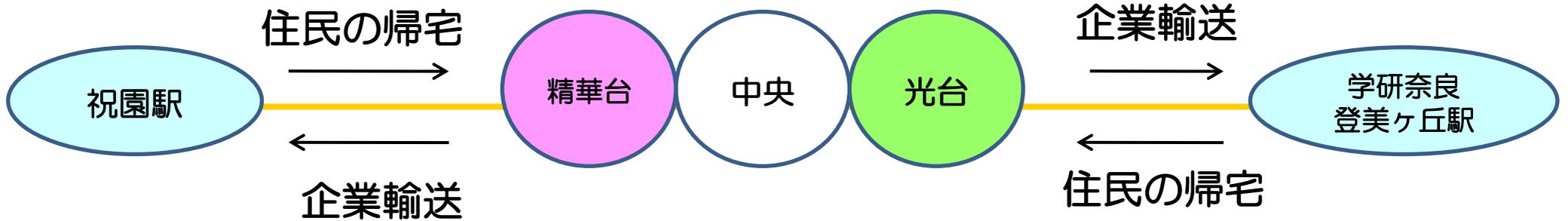
祝園駅と学研奈良登美ヶ丘駅の両駅を結ぶバスを中心としたダイヤ編成を行い、中央地区だけではなく、地域全体のバスの利便性を向上させ、地域全体の発展と公共交通への転換を図る。

◎目的のイメージ

朝



夕方以降



3. 平日の朝夕通勤時間帯のバスを増便

【祝園駅発着便】

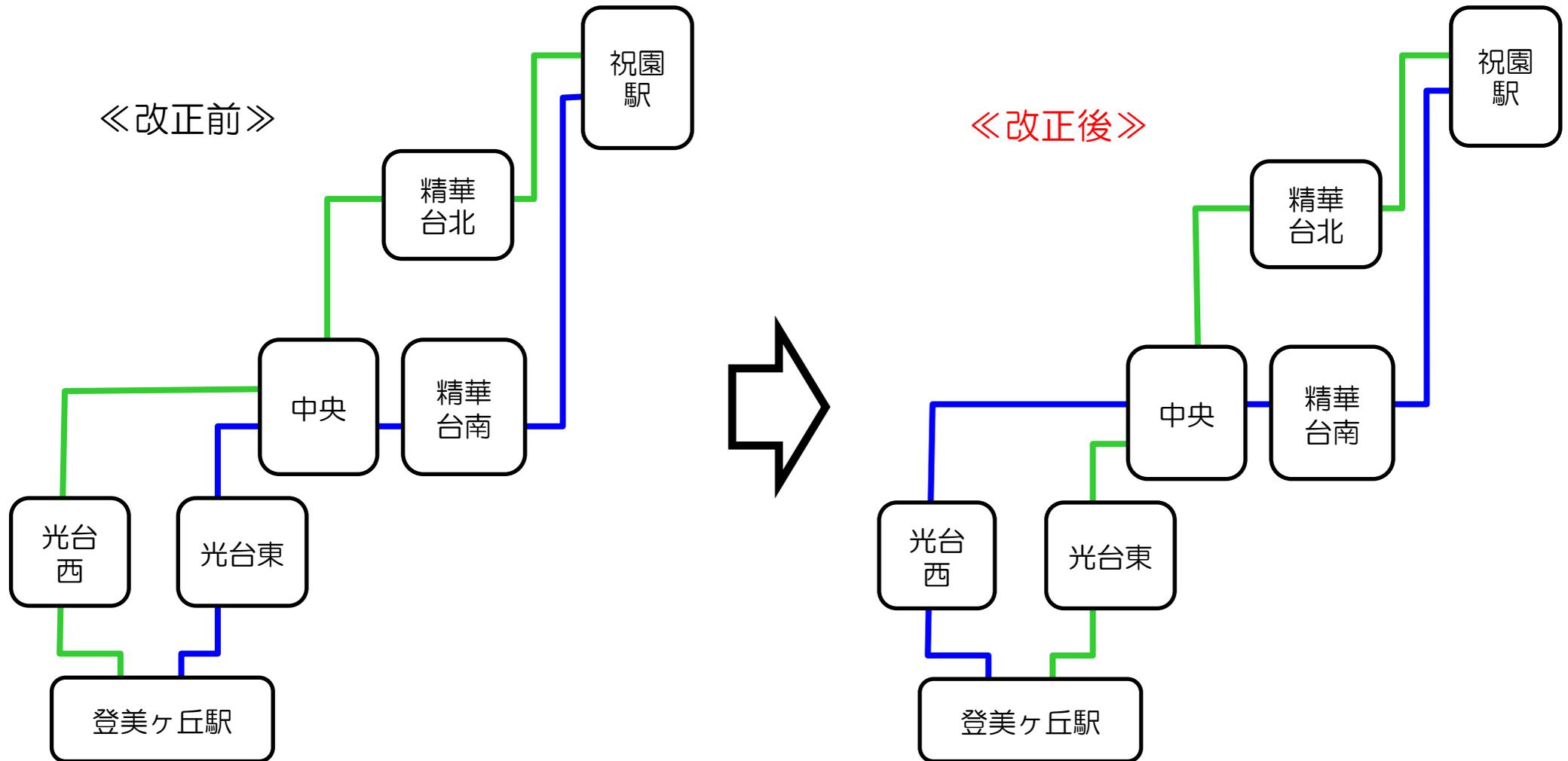
| 対象停留所 | 時間帯 | 祝園駅発 | | | 祝園駅行 | | |
|----------|--------|------|-----|----|------|-----|----|
| | | 変更前 | 変更後 | 増減 | 変更前 | 変更後 | 増減 |
| 国立国会図書館～ | 始発～9時 | 25 | 32 | 7 | 24 | 28 | 4 |
| けいはんなプラザ | 17時～最終 | 39 | 48 | 9 | 41 | 48 | 7 |

【学研奈良登美ヶ丘駅発着便】

| 対象停留所 | 時間帯 | 学研奈良登美ヶ丘駅発 | | | 学研奈良登美ヶ丘駅行 | | |
|----------|--------|------------|-----|----|------------|-----|----|
| | | 変更前 | 変更後 | 増減 | 変更前 | 変更後 | 増減 |
| 国立国会図書館～ | 始発～9時 | 20 | 24 | 4 | 21 | 25 | 4 |
| けいはんなプラザ | 17時～最終 | 28 | 44 | 16 | 30 | 48 | 18 |

※17時以降の学研奈良登美ヶ丘駅行のバスは、祝園駅を同時発車するため、実質的な増便は9便程度ですが、運行間隔は約15分間隔に改善します。

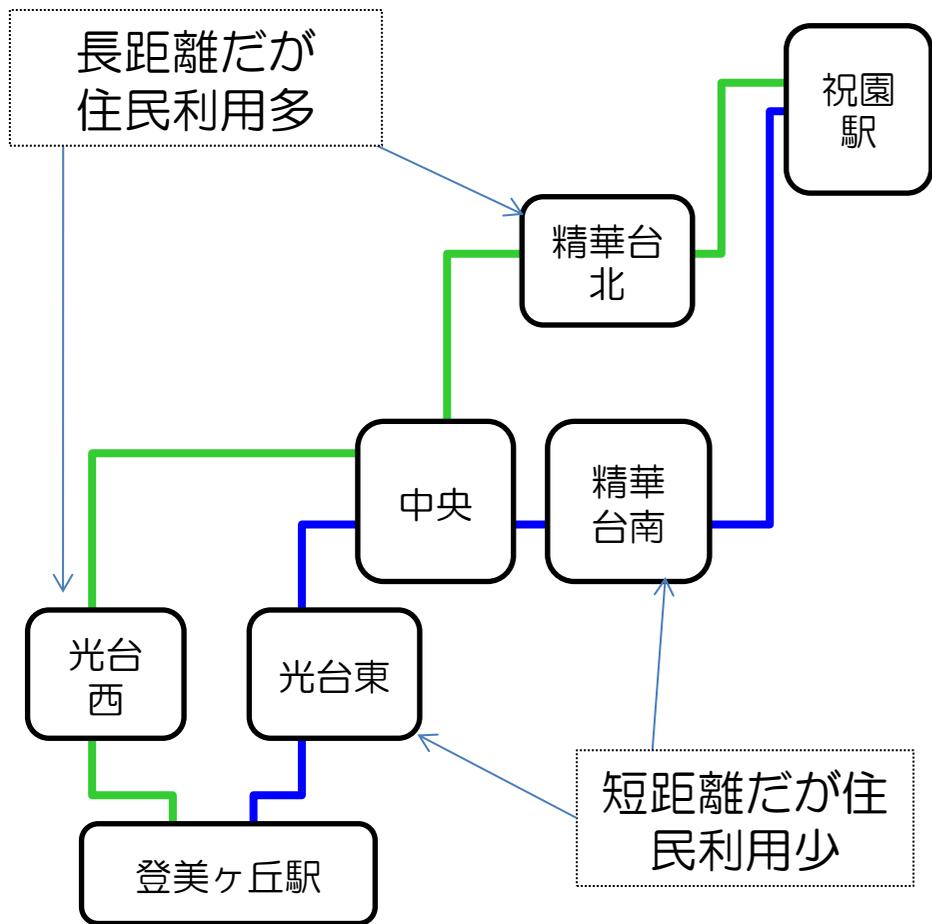
4. 祝園駅と学研奈良登美ヶ丘駅を結ぶバスの運行経路を変更



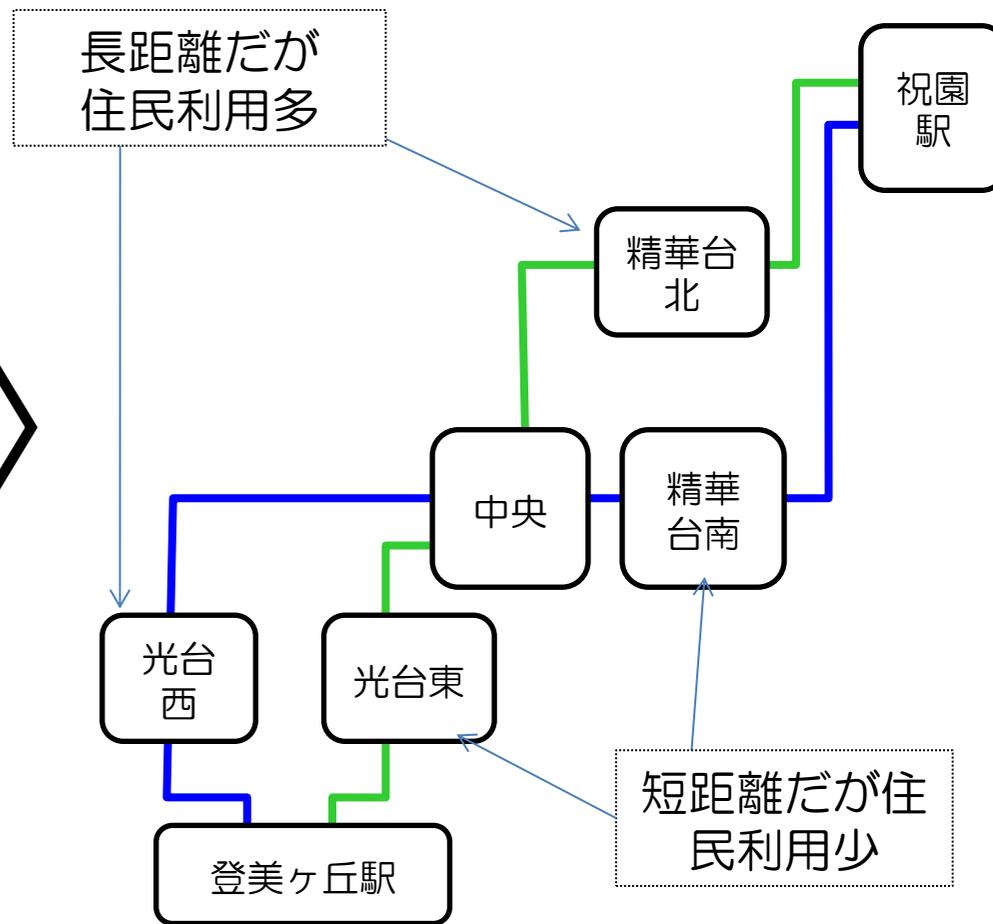
(経路の変更について)

企業輸送には駅から短距離の青のバスの増便が望ましいが、地域全体でみた場合、住民のメリットは限定的なので、青のバスと緑のバスを経路変更する。

《改正前》



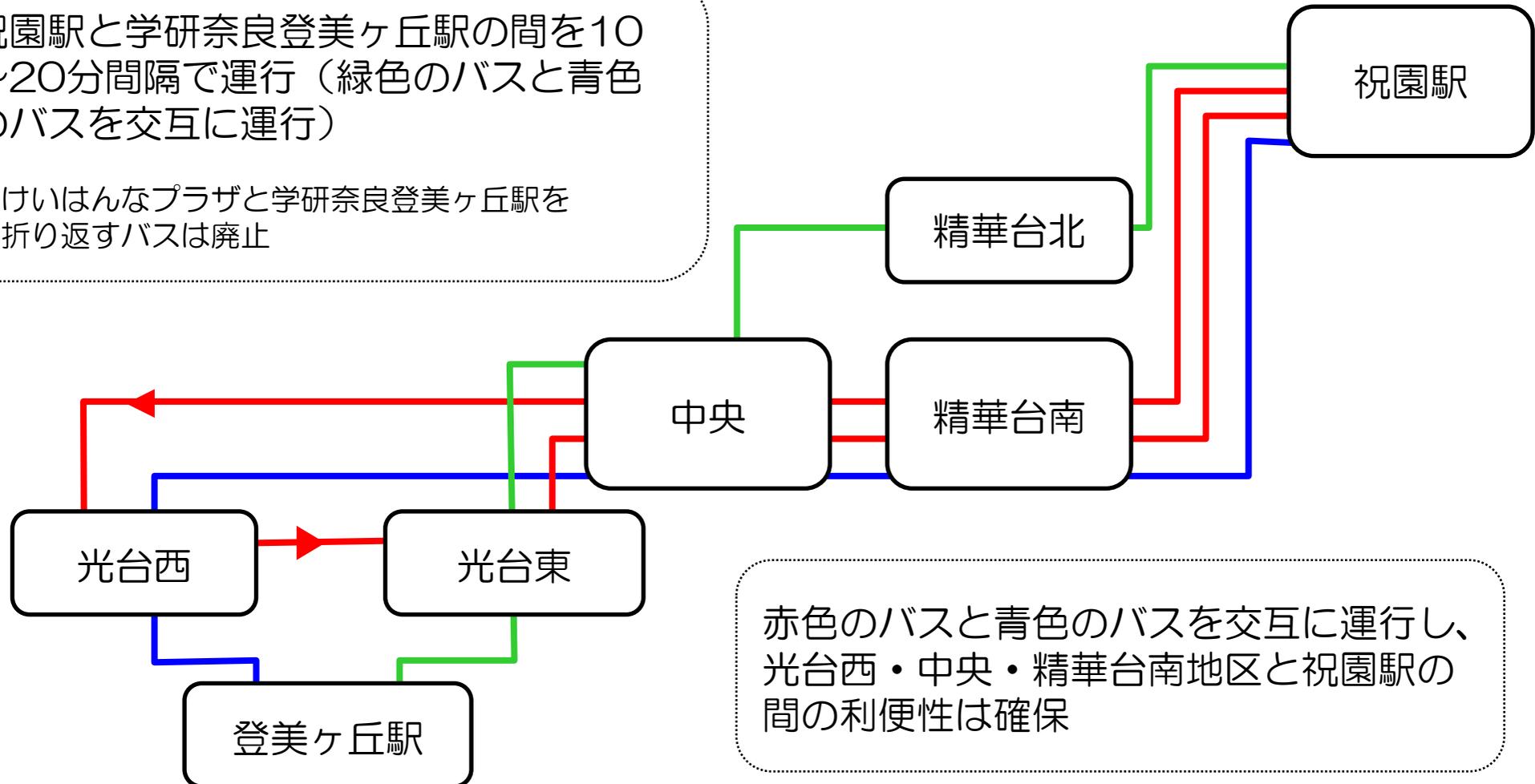
《改正後》



5. オフピーク時の祝園駅と学研奈良登美ヶ丘駅を結ぶバスの運行間隔を変更

祝園駅と学研奈良登美ヶ丘駅の間を10～20分間隔で運行（緑色のバスと青色のバスを交互に運行）

※けいはんなプラザと学研奈良登美ヶ丘駅を折り返すバスは廃止



6. その他

(1) 土日祝の増便

夕方以降の時間帯に増便および最終便を延長。

(2) 「ダイヤ改正のお知らせ」の配布

大幅な改正内容となり、早期の周知を行うため「ダイヤ改正のお知らせ」を作成し、精華町様にご協力いただき、沿線住宅に各戸配布を実施。

以 上